

★コラムを始めます★

団塊の世代がすべて75歳以上となる令和7年が迫り、高齢者が可能な限り地域で自立した日常生活を営むことが、個々の市民の方々の幸福につながるとともに医療経済的にも重要性を増しています。高齢者で死亡原因の第1位は悪性腫瘍（がん）ですが、高齢者の要介護原因疾患の第1位、2位は、認知症と脳血管障害であり、パーキンソン病・パーキンソン症候群とそれに伴う転倒・骨折、高齢者てんかん、認知症・脳卒中・パーキンソン病等での嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎を含めると、高齢者で介護が必要となる疾患の半数以上は脳神経疾患が背景に潜んでいることになります。これら疾患の発症は70から80歳にかけてピークになります。

職種にもよりますが、就業している人は現在65歳が一つの区切りで、その時点で社会生活も十分に行えている人は、これからの人生をどのように過ごすか考える機会になると思われます。できれば85歳、いや90歳までは健康で過ごしたいと思う方が大半ではないかと思いますが、がんの健診に力を入れている人でも自分がよもや脳卒中や認知症に5から10年後にかかるかもしれないとはあまり思っていないのが現状です。配偶者、子供に世話をかけて過ごしたくないと常々思っている方には特に衝撃的な出来事になります。

本コラムでは今65歳（人によっては60歳から75歳になると思います）で元気で仕事を終えた、あるいはひと段落ついた人たちが、できるだけ長く社会生活、日常生活を自立して送れるように、脳神経疾患早期発見、予防の観点から情報発信を定期的に行い、今できることを解説していきたいと思います。

理事長 北川 一夫

65歳から
脳を守ろう
理事長コラムコラムは
コチラから

かかりつけ医について

日頃の健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる地域の医療機関（診療所・クリニック）「かかりつけ医」がいれば、体調などに関して様々なことが相談できます。また、入院や精密検査が必要な場合は、症状に合った適切な医療機関を紹介してくれます。

「かかりつけ医」がない場合、一般の方々が自己判断で受診を手控えたり、延期したり、あるいは、間違った対応策をとっているうちに重症化してしまうといったことが起きることがありますが、「かかりつけ医」がいることでそれも防ぐことができます。

かかりつけ医
検索システムはコチラから➡

当院におけるがん診療について

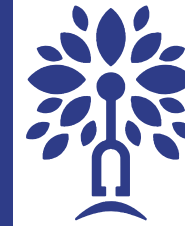
当院は、がん医療水準の向上及び安心かつ適切ながん医療が選択できることを目的として大阪府が指定する「大阪府がん診療拠点病院」に認定されています。

がんについて、当院ホームページにて解説をしていますので、記載のQRコードからご確認ください。

当院ホームページ
「覚えておきたい「がん」のこと」➡

平素より吹田市民病院だよりを御愛読いただきありがとうございます。
御意見がございましたら市立吹田市民病院まで御連絡ください。

●編集・発行 市立吹田市民病院 広報委員会

吹田市民病院
だより
No.89

〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号
TEL (06)6387-3311
FAX (06)6380-5825
メール shomu@mhp.suita.osaka.jp
ホームページ
https://www.suitamhp.osaka.jp



理事長就任あいさつ

市立吹田市民病院

理事長 北川 一夫



令和6年4月1日付けで市立吹田市民病院の理事長に就任しました北川一夫と申します。

当院は3月末に矢野理事長が退任し、4月から私と内藤病院長の新体制に移行しました。市民の皆様には新体制になってからも、どうかこれまで以上の御支援と御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

私は昭和58年に大阪大学を卒業し、その後一貫して脳卒中を専門とする脳神経内科医として修練を積んでまいりました。米国コロンビア大学留学、大阪大学第一内科助手、神経内科学准教授を経て、平成26年4月から10年間東京女子医科大学脳神経内科教室主任教授、診療部長として勤務してまいりました。平成31年には第44回日本脳卒中学会を会長として開催し、日本神経学会、日本脳卒中学会等では理事として学会活動に貢献してきました。また、東京女子医科大学医学部教育では教務委員長を3年間勤めコロナ禍での学生教育にも尽力してまいりました。市立吹田市民病院では管理者としての業務がメインになりますが、脳神経内科外来診療など現場の診療にも関わることができればと考えています。

さて、当院は平成26年4月に独法化、平成30年12月にJR岸辺駅前の北大阪健康医療都市（健都）に移転し、国立循環器病研究センターのすぐ隣に位置しています。吹田市には国立循環器病研究センター、大阪大学医学部附属病院という日本を代表する高度先進医療機関がありますので、当院はこれら病院と密接に連携をとり患者の皆様に高度で安心できる医療をシームレスで提供していきたいと思います。幸い大阪大学に長く勤務し、また国立循環器病研究センターにも私が脳卒中診療を専門としてきました関係で、両施設の先生方と普段から交流していましたので今後はさらに連携を図り、より良い医療を提供できるように尽力したいと思います。

令和元年から続きました新型コロナウイルス感染症が少し落ち着き、5類感染症へ移行しましたが、病院、クリニックでの診療には依然として新型コロナウイルス感染に対する緊張感がみなぎっており、感染予防に注意することはこれまで通りだと思います。また本病院の第3期中期計画のなかで市民の皆様への情報の提供、広報誌、ホームページの充実、市民公開講座などを実施することにしており、私の専門の脳を守るという観点からのコラム（65歳から脳を守ろう理事長コラム）の連載などを企画していますので、楽しんで読んでもらえればうれしく思います。患者さん、市民の皆様、職員の方々に、好かれ、愛着をもっていただける病院になるようにし、「市民とともに心ある医療を」の基本理念のもと、内藤病院長をはじめ全職員とともに市民の皆様の健康を守るように誠心誠意つくしたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医師のご紹介



たね いけ り か
種池 里佳
診療科 循環器内科(部長)
4月から赴任いたしました。他科、地域医療施設とのスムーズな連携ができるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



やな がわ かず のり
柳川 和範
診療科 消化器内科(部長)
4月から赴任しました。よろしくお願いいたします。



こ やなぎ じゅん いち ろう
小柳 淳一朗
診療科 整形外科(部長)
4月から赴任しました。生まれ育った吹田市での医療に携わることができ大変うれしく思っております。よろしくお願いいたします。



ひがしぐち まさ よし
東口 将佳
診療科 呼吸器・リウマチ科(医長)
呼吸器内科を専門にしています。皆さんのお役に立てるように一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。



すぎ のべ ひで ひろ
杉辺 英世
診療科 小児科(医長)
4月から赴任しました。こどもの健やかな心身を育めるよう御家族に寄り添った医療を心掛けます。よろしくお願いいたします。



うら の なお み
浦野 尚美
診療科 外科(医長)
4月に赴任いたしました。市民の皆さんの消化器外科に対する治療・診療に努めてまいります。よろしくお願いいたします。



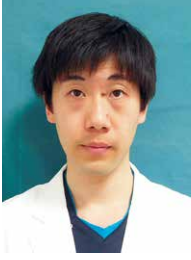
いの うえ もと い
井上 基
診療科 産婦人科(医長)
4月から赴任しました。お役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



おか べ ふく こ
岡部 福子
診療科 呼吸器・リウマチ科(医員)
4月から赴任しました。皆さんのために頑張ります。よろしくお願いいたします。



うえ だ りゅう た
植田 隆太
診療科 外科(医員)
4月から赴任しました。外科治療を専門としております。地域の医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



まつ はし たか ひろ
松橋 崇寛
診療科 脳神経外科(医員)
患者さん一人一人に寄り添った質の高い診療を提供できるよう精進していく所存です。よろしくお願いいたします。



やなぎや りょう こ
柳谷 諒子
診療科 耳鼻咽喉科(医員)
分野問わず耳鼻咽喉科疾患にお困りの方のお力になりたいと思います。初めての関西地方勤務ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



第17回 市民公開講座を開催しました

令和6年3月18日（月）健都ライブラリーにて、第17回市民公開講座を開催しました。テーマは「人間ドックの重要性～健都における市立吹田市民病院では～」でした。

呼吸器・リウマチ科 片田 圭宣診療局長が人間ドックについて、放射線部 北谷 昭副部長が骨粗しょう症について、栄養部 南野 幸生参事（令和6年3月31日付で退職）が食事や栄養について話をしました。また、健都パークライフ創造パートナーズ 健康運動指導士 横田 彩氏による椅子を使ったストレッチを実施しました。24名の方が参加され、熱心に話を聞いておられ盛況のうちに終わりました。講演の要旨を紹介します。

第1部 「人間ドック受診で健やかな生活を」

呼吸器・リウマチ科 診療局長 **片田 圭宣**

「人生100年時代」。現在の日本における健康にまつわる統計データの紹介をしながら、健康寿命を延ばして充実した生活を送るためには病気が発症する前に体の異常を早くみつけて治療することが大切です。その中で当院の人間ドックでは日々の病院での日常診療に携わる臨床スタッフが精密な検査を行い、一人一人の検査結果に合わせて丁寧に説明していることが特徴です。また、必要時には治療に直結する対応をしています。



第2部 「知っていますか？骨粗しょう症のこと」

放射線部 副部長 **北谷 昭**

骨粗しょう症とは、骨の細胞が古くなった骨を壊す働きと新しい骨を作る働きのバランスが崩れ、骨量が減少し骨が脆くなる症状のことです。主に加齢や閉経による女性ホルモン(エストロゲン)の分泌低下によって発症するものなどがあります。骨粗しょう症が原因となり、比較的軽い衝撃で骨折が起こってしまうことがあるので、骨密度測定を実施して自身の骨の状態を確認し、食事や運動等による対策をとることが大切です。

第3部 「[疾病予防と栄養]気を付けたい食事のおはなし」

栄養部 参事 **南野 幸生**

現代社会では様々な情報にあふれており、その中でも食事や栄養に関する情報もたくさんあります。食事について、以前は身体に良いとされていたものが現在では健康に影響を与えてしまうものであると学説が変わっていくことがあるので、全ての情報を鵜呑みにするのではなく、人間ドックの一環として栄養士が行っている栄養相談で自身の食生活を分析し、どのような食事が身体に良いのか旬の情報を得ていくことが重要です。



リフレッシュタイム 「いすでお手軽ストレッチ」

健康運動指導士 **横田 彩**氏

講演と講演の間にいすを使ったストレッチ（主に、首、肩、背中、肩甲骨を伸ばす体操）を実施していただきました。ストレッチ中、参加していただいた方は体を動かすことで気持ちよさそうにいただいております、ストレッチ後の講演も集中して聞いていただきました。

※演者の役職については令和6年3月18日時点のものを記載しております。